

都市と交通の講義を受けて

所属チーム：緑 C1250243 池田美優

A) 他のチームの発表を聞いて

私が参考になった班は、「オムライス班」と「FOODS班」である。始めに「オムライス班」については、事故ゼロを目指すために音や光によって運転者の注意を促すことができる」と指摘していた。音や光での注意は高齢者や障害者、免許取り立ての若者に限らず、多様な世代の運転者の事故や不注意防止に繋げることができると発表を聞いて感じた。また、音や光を活用することによって、運転者だけでなく歩行者も車の存在に気がつきやすくなり、お互いに注意し合いながら共存して暮らせるようになる」と考えた。以上のことから事故ゼロを目指すために運転者の注意だけでなく、歩行者の注意も必要であるため、音や光の活用はとても参考になった。次に「FOODS班」については、仮想通貨により公共交通の利用者を増加させることができると指摘していた。仮想通貨を利用することで、公共交通を安く利用できる他、地域活性化につなげることができる。そのため、多くの人々が公共交通への興味が湧き、利用者増加、公共交通の利便性向上ができるのではないかと感じ参考になった。

B) 地方都市における交通の問題を総合的に解決するための自分の意見

私たちの班では、高齢者による交通事故が多発していること、免許を返納したいという意思があっても現在の生活環境では返納が難しいことを問題の原因として考えた。一方、オムライス班とFOODS班の発表を聞いて、事故の多さよりも事故が起きた際の重さと影響が大きいこと、公共交通の利便性が悪いことも追加の原因として考えた。これらを踏まえると、「高齢者の事故を減らし、免許に頼らずとも移動できるようにするためには」、「高齢者の免許返納を進めるためには」、「不注意を減らすためには」、「公共交通の利用性を増やすためには」という4つの課題が設定される。この4つの課題を共通して解決するためには、代替移動手段の確保と、安全技術の向上という視点が大切になってくる。そのため、ビジョンとして、「免許に頼らずとも、快適に移動でき、誰もが安全・安心に暮らせる社会」を設定した。一方、チームで検討した際は、「高齢者が車に頼らずとも、安全・快適に暮らせる社会」をビジョンとして設定しており、対象者が主に高齢者だった。よって、高齢者に限らず、誰もが安全・安心・快適に移動できるという視点が追加された。このビジョンを踏まえて以下の解決策を考える。高齢者の事故を減らし、免許に頼らずとも移動できるようにするためには、自動車に頼らないで移動しなければならない。そのため私たちのグループでは、電動車椅子といった身体への負担が少ない移動手段の確保を解決策として考えた。しかし、初めから行動に移すことは難しい。そこで自治体での貸し出し期間を設ければよいと考える。これによって高齢者へ車に頼らずとも移動できる手段があるということを知ってもらう機会になり、移動手段の見直しが期待される。また、乗り合いタクシーといった優遇制度を利用することで、自らの運転よりも安全に移動できるという策

もある。次に高齢者の免許返納を進めるためには高齢者に対して、現在の能力を確認してもらい、自分の能力が低下していることを知ってもらわなければならない。したがって、交通安全講習会の開催や、定期的な適性検査の実施を行う必要がある。また、交通脳トレや危険予知トレーニングを実施することで、日頃の運転習慣の見直しを図ることもできる。以上のことから、高齢者の免許返納を進める環境作りが期待される。

一方、私たちの検討に加えて、以下のことが解決策として挙げられる。運転者の不注意を減らし事故を減らすためには、音や光を利用した道路環境にするという解決策がある。これにより、不注意防止や居眠り運転の防止が期待される。また、現代では、ハイブリット車などエンジン音が静かな車が多く、歩行者が車の存在に気づいていないことも多々ある。そのため、音や光を利用することで、歩行者も車の存在に気がつきやすくなり、両者の安全性向上が期待される。次に公共交通の利用性を増やすためには、仮想通貨の発行が解決策として挙げられる。これにより、公共交通を今まで以上に低価格で利用できるようになる。また、地域の買い物でも利用できるため、地域活性化につながられる。以上の解決策により、公共交通の利便性向上と、利用者増加が期待される。同時に高齢者も公共交通利用への意識が高まり、高齢者の移動手段確保も期待されるだろう。

しかしながら課題もある。それはコストが多くかかってしまうことである。そのため、家族や地域同士で交通問題についてさらに意識する必要があると考えた。確かにコストをかけて環境を整えることも大切である。しかしながら、住民の思いを深めなければ交通問題は解決できないと考える。住民一人一人の事故を減らそうとする思いや、運転者と歩行者の思いやりを高め共存することで交通問題が少ないまちになるのではないか。

- ① 採点結果希望です
- ② miyuiked754@gmail.com